管　内　の　概　況

◆ 宗谷の沿革

『宗谷郷土年表史』によると、天正11（1583）年、北海道が蝦夷地として松前藩に属していた頃、恵比須屋某が場所請負人となり、漁業開発の促進によって拓かれました。

明治5（1872）年9月、札幌開拓使庁が札幌本庁と改められると同時に、宗谷支庁も置かれましたが、翌6年2月には廃止となり、留萌支庁が置かれ、その管轄になりました。さらに、明治8（1875）年には札幌本庁に統合されることとなり、これと同時に、開拓使出張所を宗谷に、派出所を利尻と礼文に、また枝幸には郡総代が置かれました。

明治19（1886）年1月、北海道庁が置かれると、その所轄となり、明治21（1888）年には宗谷に置かれていた郡役所を稚内に移すこととなり、明治30（1897）年11月には、官制改正により宗谷支庁となり、宗谷、枝幸、利尻及び礼文の4郡を管轄することとなりました。

昭和23（1948）年10月、留萌支庁管内豊富村を管轄区域に編入し、また、昭和24（1949）年4月には稚内町が市制を施行し、昭和30（1955）年2月には宗谷村が稚内市に編入されました。

平成18（2006）年3月、枝幸町と歌登町が合併し、平成22（2010）年4月、宗谷総合振興局に改称するとともに、留萌支庁管内から幌延町が編入し、現在は1市8町1村を所管しています。

◆ 地理と気候

宗谷総合振興局管内は、北海道の最北に位置し、東部はオホーツク海、西部は日本海、南部は上川や留萌及びオホーツク地方に接し、北部は宗谷海峡を経てサハリン（旧樺太）を望み、さらに日本海には利尻島・礼文島があります。

宗谷丘陵

管内総面積は、4,625.70km²で、全道総面積の約5.5％を占め、ほぼ京都府の面積に匹敵しており、東西約148km、南北100kmに及んでいます。

管内の人口は、令和５年（2023年）４月末の住民基本台帳人口によると、58,491人で全道の約1.1％となっています。

管内には、利尻礼文サロベツ国立公園があります。海抜1,721ｍの利尻山をはじめ、礼文に咲き乱れる花、そして、広大なサロベツ湿原など、雄大な自然に親しむために多くの観光客が、春から夏にかけて訪れます。

気候については、日本海を北上する暖流の対馬海流が宗谷海峡からオホーツク海へ分流しているため、沿岸部の気温は内陸部に比べて比較的高いですが、強い北西の風により体感気温は低く、また、冬季には地吹雪も見られ、離島を結ぶフェリーの欠航などの交通障害が生じることもあります。

また、沿岸部では風が非常に強く、この風を利用した風力発電施設として、現在では100基を超える風車が稼働しています。特に宗谷丘陵では、風車が林立しており、周氷河地形とともに壮大な景観を形づくっています。

宗谷岬ウィンドファーム